


日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA


第211回定期演奏会

The 211st Regular Concert



時代をつむぐ… 未来へつなぐ

2014年3月15日[土]
午後13時30分開演
(13時開場)

 津田ホール
Tsuda Hall

演出：桜井智永 構成：久保田晶子 舞台監督：中島隆

主催：特定非営利活動法人日本音楽集団

助成：平成25年度文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)

協賛：津田ホール

後援： 公益財団法人日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

■ 日本音楽集団： <http://www.promusica.or.jp/> E-mail： office@promusica.or.jp

時代をつむぐ

1964年、作曲家や邦楽器奏者ら14人が集まり結成した日本音楽集団は今年で50周年を迎えます。これまで1000曲を優に超える作品を生み出してきました。当定期演奏会では、50周年を前にこの珠玉の作品群を振り返り、あらためて再演したい、そしてこれからも演奏し続けてい

60年代…

『ソネット』1962年 三木稔 作曲

[尺八]渡辺淳 [尺八II]宮田耕八朗 [尺八III]三橋貴風

ソネットとは、14行詩、小詩のこと。ここでは三本の尺八のための小さな歌というほどの意味で用いられている。作曲者がデモニーッシュな「本曲」にまだ接する事の無かった時期の、日本の楽器のための最初の作品。ナイーブで美しい旋律がちりばめられており、それぞれの旋律は奏者によって自由に装飾されてゆく。1962年に作曲され、箏独奏の「芽生え」とあわせて、映画「愛のコリーダ」のテーマとして使われた。

日本音楽集団結成のきっかけともなった「東京尺八三重奏団」(村岡実・横山勝也・宮田耕八朗)によって初演された。

70年代…

『^{さっとう}颯踏』1975年 長澤勝俊 作曲

[笛]竹井誠

[打楽器]多田恵子 山内利一

1975年の初演の際には「笛と打楽器のための音楽」という抽象的なタイトルで発表されたが、後に雅楽に由来する「颯踏」という名が付けられた。作曲者によれば、作品の主眼は篠笛と能管という2種類の横笛の性格を打楽器との合奏の中で際立たせることにあるという。全体は2章に分かれており、第1章では能管が冒頭で幽玄な世界を存分に繰り広げたのちに、即興的に導入される鼓や鑿の余韻と絡み合っただけ。第2章では締太鼓のリズムに乗って篠笛が祭囃子を思わせる軽妙な旋律を奏でる。後半に現れるシンコペーションも作曲者ならではの持ち味である。

80年代…

『青のモチーフによるコンポジション』1984年 佐藤敏直 作曲

[指揮]苦米地英一

[笛]新保有生 [尺八I]元永拓 [尺八II]阪口夕山

[三味線]山崎千鶴子 [琵琶]久保田晶子

[箏I]熊沢栄利子 [箏II]桜井智永 [十七絃]久本桂子

[打楽器]尾崎太一 盧慶順

1984年の委嘱作品で日本音楽集団20周年記念シリーズで初演された。純粋な邦楽器の作品としては(作曲者にとって)ちょうど10作目にあたる曲であった。当時、以前に書いた「ディベルティメント」とは趣を異にしたものを書きたいと思っていたこともあり、邦楽器を一段と色彩的に発現させることは出来ないものかと考えた。それはもしあの水彩画独特の自然な色調に相応しい絵具の使い方があるとするならば、それに不用意に逆らった方法で絵をかくのに似た冒険だったかもしれないが、どうしても一度は通ってみたい音楽的な要求だった。そこで、下降する「ド・ソ・ファ・レ」というモードを、青のモチーフと勝手に名づけた。そうしてこの「青」に多様な意味を持たせるために、それ以外の想像し得るさまざまな色彩の濃淡と清濁とを、集まった楽器に通わせ、予想できる混沌も是として構築したのだった。(1996年 作曲者)

・ 未来へつなぐ

きたい曲を年代ごとにおって演奏させていただきます。そして当団の未来へつなげる一歩として、秋岸寛久の新曲もご用意いたしました。

時代とともに邦楽アンサンブルの糸をつむいできた当団は、これからの未来に、本日また一歩、歩みを進めたいと存じます。

90年代…

『シンフォニエッタ・ルラーレ』1992年 上野耕路 作曲

[指揮]田村拓男

[笛]遠藤悠紀 [尺八I]原郷隆 [尺八II]阪口夕山 [尺八III]大賀悠司

[三味線]杵家七三 [琵琶]藤高理恵子

[箏I]桜井智永 [箏II]伊藤麻衣子 [箏III]三宅礼子

[十七絃]久本桂子 岡山亮子

[打楽器]盧慶順 島村聖香

サブカルチャー以降、欧米のスノビズムと化した括弧付きの東洋思想・・・その寸法に合わせた日本人の作品・・・日本において、欧米の流行を味方につけることが好評の保証なのであれば、私はそうした作品は書かない。

このタイトルの「田舎風」というのは、欧米のスノビズム足り得ない日本人の意識の辺境性を指しているのあって、聞き取り易いリズム、メロディ、東洋的造形の音楽時間的アナロジーの拒絶との関係は恣意的だ。

さて、最近流行のポピュラー的喉ごしの良さへの無条件降伏は、私には耐え難い。運悪く私の作家イメージはその範疇のようだ。この作品を聞いてまだそう思われるとしたら・・・たぶんそうに違いない・・・私はとても不辛だ。(1995年 作曲者)

…未来へ

『眩耀泡幻』^{げんようほうげん}2014年 秋岸寛久 委嘱新作

[指揮]苦米地英一

[笛]竹井誠 新保有生

[尺八I]原郷隆 大賀悠司 [尺八II]元永拓 田野村聡

[三味線I]箕田司郎 [三味線II]山崎千鶴子 [琵琶]久保田晶子

[箏I]熊沢栄利子 三宅礼子 [箏II]桜井智永 伊藤麻衣子

[十七絃]久本桂子 岡山亮子

[打楽器]尾崎太一 島村聖香 山内利一

歌詞のある歌や合唱は別として、器楽曲で情景や感情を表現するのは、どちらかという苦手な方です。作曲をしている間、頭に浮かんでいるのは、その曲が演奏されている場面、ということが多いですね。表現したいものが奏者を通して聴き手に伝わり、その喜びをまた作品に反映させるという、再帰的な作業をしているような気がします。従ってタイトルを付けるのにたいへん苦労します。カンディンスキーが「ふたつの楕円」などと描かれている形そのものをタイトルにしているのがうらやましく感じられます。

今回、完成がたいへん遅くなってしまったにもかかわらず、すばらしい初演をしてくれるであろう音楽集団の仲間たちに、心より感謝いたします。(作曲者)

【正会員】 (団員) (楽器別・五十音順)

<p>笛 あか 潤 速藤 悠紀 新保 有生 竹井 誠 (尺八) 西川 浩平</p> <p>箏 伊藤 麻衣子 岡山 亮子 久東 寿子 熊沢 栄利子 桜井 智永美 佐藤 里春美 島崎 映美保 ※ 田村 法保子 彦坂 惠美子 久本 桂子 前川 美保子 丸岡 映美子 三宅 礼子 三宮 越圭子 山田 明子 渡辺 正子</p> <p>打楽器 白杵 美智代 尾崎 太一 黒坂 昇香 島村 聖香 仙堂 新太郎 多田 惠子 望月 喜之丞 山内 利順 盧 慶</p> <p>指揮 稲田 康 田村 拓男 菅米 地英一</p>	<p>米澤 浩 渡辺 淳</p> <p>三味線 杵家 七三志 穂積 大志 箕田 弘大 箕田 司郎 守啓 伊子 山崎 千鶴子</p> <p>琵琶 久保田 晶子 首藤 久美子 田原 順子 藤高 理恵子</p>	<p>作曲 秋岸 寛久 川崎 絵都夫 篠田 大介 高橋 久美子 福嶋 頼秀</p> <p>楽器・舞台 中島 隆</p> <p>代表 田村 拓男</p> <p>副代表 尾崎 太一</p> <p>監事 宮田 耕八朗 三田 村典昭</p>	<p>運営委員 川崎 絵都夫 久保田 晶子 桜井 智永 久本 桂子 穂積 大志 元永 拓 守啓 伊子</p> <p>アートマネージメント 大西 愛子</p> <p>事務局 中山 美穂子</p> <p>永久名誉団員 長澤 勝俊</p>
--	--	---	--

2014年3月現在
(※印は休団中)

● 賛助会員へのお誘い ●

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 個人会員10,000円(一口以上) 法人会員30,000円(一口以上)

【賛助会員】(口数・五十音順)
[法人]
神戸レコード倶楽部 宅音便
有限公司 邦楽ジャーナル
日凸運送株式会社

[個人]
水野 正徳
皆川 正一
山本 昌男
*

青山 光枝
朝吹 英世
安倍 潔
池田 紫真
伊藤 憲夫
伊藤 美好

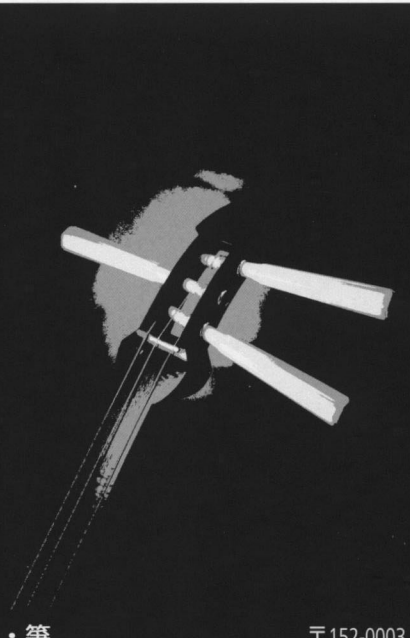
江西 縁
小野 永恵
柿崎 やよい
風見 万里子
小池 節子
佐藤 裕美

佐藤 玲子
杉山 英樹
添川 浩史
辻 淑子
東谷 仁
富山 優子

友杉 毅
西野 千恵子
藤川 雅之
元永 明希
元永 美代子
森 繁美

油谷 美穂子
渡辺 治子

(2014年3月現在)



三味線・箏

株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 2-19-15
TEL 03(3792)8481 FAX 03(3792)8437
URL : <http://kinko-do.com/>
E-mail : tokyo@kinko-do.com

特定非営利活動法人

日本音楽集団